

1. 自己評価及び外部評価結果

作成日 平成23年11月22日

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4690200102
法人名	特定非営利活動法人 こしき風林火山
事業所名	グループホーム 多喜人
所在地	鹿児島県薩摩川内市里町里470番地 (電話) 09969-3-2127
自己評価作成日	平成23年10月15日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://kaken-shakyo.jp/kohyo
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人自立支援センターかごしま 福祉サービス評価機構
所在地	鹿児島県鹿児島市星ヶ峯四丁目2番6号
訪問調査日	平成23年11月15日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

甕島・里町の武家屋敷通りの一角にあり、非常に静かな環境の中で利用者が落ち着いた生活を送ることができる。
また、地域特性上、昔からのなじみの方々が近隣にたくさんおられるため、利用者の孤立感は軽減されると考える。外出時も、地域住民の方々より声を掛けられるため、住み慣れた地域の中で生活している実感を利用者は持つことができる。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

【事業所の優れている点】

- ・自治会に加入するなど、地域とのつながりを大事にしており、利用者の友人や知人の訪問があり、関係性が継続できるように支援している。
- ・ホームへの踊りなどの慰問を通じて近所の方が集ったり、中学校の職場体験の受け入れや幼稚園・小学校との交流がある。
- ・利用者の毎日の暮らしぶりをもとに、職員会議やサービス担当者会議等において意見交換を行い、プランを作成し支援に結びつけている。ケアプランのモニタリングは毎月実施し、現状を把握している。

【事業所の工夫点】

- ・事業所として市役所など外部との交流を推進している。運営推進会議には、市の担当者や民生委員・自治会役員・消防分団員・駐在所警察官も出席し、開催している。また、夏祭りなど事業所の行事には、市役所職員や地域住民代表等も参加し開催している。

自己評価	外部評価	項目	自己評価		
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員はその理念を共有して実践につなげている	理念を誰でも見れる場所に掲示し、職員会議等で随時確認している。	理念はホールの中央に掲示しており、地域重視の文言を話し合いで追加している。職員会議等で理念を随時確認し、理解を深め日々の実践につなげている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	当該自治会にも加入しており、近隣住民との交流は深い。また、地域行事へも可能な限り参加している。	自治会に加入しており、事業所への踊りなどの慰問を近所の人が見に来たり、差し入れもある。中学校の職場体験の受け入れや幼稚園・小学校との交流があり、地域とのつながりを大事にしている。	
3		○事業所の力を生かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて生かしている。	地域に対し、アドバイス出来る程ではないが、各職員で理解している範囲でおこなっている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議の中で、利用者の状況、介護方法等報告し、委員からの質疑も多く、今後の介護へつながっている。	運営推進会議は2ヶ月に1回開催している。家族や民生委員・市の担当者・自治会役員・消防分団員・駐在所の警察官等が出席している。外部評価の結果報告やホームの活動内容等を説明し意見交換を行い、サービス向上に活かしている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価		
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	4	<p>○市町村との連携</p> <p>市町村担当者と日頃から連携を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。</p>	<p>里支所が近所であるため、各申請等、随時足を運び、情報共有を図っている。</p>	<p>市の担当者とは、週に数回、情報交換し、普段から交流を深め、協力関係を築いている。市の担当者は運営推進会議のほか、夏祭りなど事業所の行事にも参加している。</p>	
6	5	<p>○身体拘束をしないケアの実践</p> <p>代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。</p>	<p>身体拘束廃止を絶対的なものとし、どのような行為が身体拘束に該当するのか、職員会議等で検討している。</p>	<p>身体拘束をしないケアについては事業所の規程を定め取り組んでいる。勉強会等で話し合い、利用者が自由な環境で生活できるように支援している。日中は鍵をかけないケアを実践している。</p>	
7		<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	<p>虐待についても、5つの虐待を正しく理解し、どのような状況が虐待に該当するのか、職員会議等で検討している。</p>		
8		<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。</p>	<p>権利擁護については理解が難しく、殆どの職員が正しく理解できていない。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価		
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。</p>	<p>入所申込時は原則として本人・ご家族に来園していただき、重要事項等説明をおこなっている。また、入所時も再度重要事項等説明している。</p>		
10	6	<p>○運営に関する利用者、家族等意見の反映</p> <p>利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。</p>	<p>玄関に苦情箱を設置しているが、投函がないため、ご家族ご面会時や、自宅訪問時等、意見を聴くようにしている。</p>	<p>利用者から、日頃の生活の中で意見や要望を聞き、家族から、面会時や自宅訪問で直接話を聞いており、要望には職員全体で解決できるように努めている。玄関に苦情箱も設置している。</p>	
11	7	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。</p>	<p>随時職員からの意見は聞く環境にしている。また、職員会議等での意見交換をおこなっている。</p>	<p>職員会議を月に1回実施し、運営に関する意見等を聞いている。管理者は日頃から職員とコミュニケーションを取るように心がけており、必要に応じて施設長に報告して、勤務についての要望もできるだけ配慮している。</p>	
12		<p>○就業環境の整備</p> <p>代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。</p>	<p>利用者への接し方、勤務態度等を考慮し、賞与にて反映させている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価		
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>離島のため、本土での外部研修は少ないが、外部講師を招いての内部研修をおこなっている。最近では、甕島での研修も多くなっている。</p>		
14		<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>最近では、甕島での研修会も多くなっており、同業種との交流の機会も増えてきている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	
			実施状況	実施状況
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている</p>	<p>入所前より関係は始まっていると考え、事前の随時の訪問やコミュニケーションを通して、なるべく環境の変化、精神的な変化が緩和できるよう配慮している。</p>	
16		<p>○初期に築く家族等との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている</p>	<p>入所前より、利用者についてのさらなる詳細をなるべく多く伺い、入所後の環境整備に配慮している。</p>	
17		<p>○初期対応の見極めと支援</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	<p>入所申込の段階で、あらゆる他サービスの説明を交えながら入所申込対応をおこなっている。</p>	
18		<p>○本人と共に過ごし支え合う関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている</p>	<p>少ない利用者数のなかであるため、利用者間の交流は深いが、職員の都合で生活リズムが決まってしまうところがまだある。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価		
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を介護される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族が遠方在住の場合は、毎月、あるいは随時の電話連絡等により、状態報告おこなっている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	利用者からの個人的な外出希望時には、ご家族、外出相手先に事前に連絡し、了解を得てからおこなっている。	友人や知人の訪問があり、関係を継続できるように努めている。馴染みの美容室や温泉に行ったり、自宅への外出などはできるだけ希望に添えるように支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	食事やお茶、レクリエーション時等、利用者の交流の場の提供は積極的におこなっている。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用〈契約〉が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後の状態確認、面会等は随時おこなっている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価		
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	日常生活での会話の中で、本人の意向等把握し、対応するにはしているが、まだまだ職員の都合で動いてしまう部分が多々ある。	入居が決まった時点で、事前に自宅を訪問して、利用者の思いや希望を聞き、家族からも情報を得ている。日々の生活支援の中から、利用者の意向を汲み取り、利用者中心の支援を目指している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活暦や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所前の生活環境からの変化がなるべく軽減できるよう、事前調査をおこなっている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者の生活リズムの把握につとめ、現状把握をおこなっている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	サービス担当者会議や毎月の職員会議等において検討している。	利用者の日々の暮らしぶりをもとに、職員会議やサービス担当者会議において意見交換を行い、プランを作成している。モニタリングは、毎月実施し現状を把握している。介護計画の見直しは、1年毎であるが、状態が変化した場合は随時見直しを行っている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価		
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		<p>○個別の記録と実践への反映</p> <p>日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている</p>	<p>個別記録を作成、記入し、情報共有を図るとともに、職員間での申し送り帳を作成、記入している。</p>		
28		<p>○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化</p> <p>本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる</p>	<p>施設でおこなわれるサービスの柔軟化には配慮しているが、多機能化については取組めていない。</p>		
29		<p>○地域資源との協働</p> <p>一人ひとりの暮らし方を支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している</p>	<p>当地域の特徴である地域とのつながりを大切にし、最大限に活用させていただいている。</p>		
30	11	<p>○かかりつけ医の受診支援</p> <p>受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>かかりつけ医については、利用者の不安がないよう、基本的に入所前のかかりつけ医を継続している。</p>	<p>希望のかかりつけ医への支援体制を整えている。協力医療機関医師が2週間に1回の往診をされており、通院は可能な範囲で職員が対応している。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価		
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		<p>○看護職員との協働</p> <p>介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している</p>	<p>利用者に状態変化が見られた場合はすぐに看護職員へ連絡・報告し、看護職員により受診の対応、ご家族への連絡等おこなっている。</p>		
32		<p>○入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。</p>	<p>利用者が入院となると、島を離れ、本土医療機関への入院である。入院後は、入院医療機関との密な連携、または面会等を通し、スムーズな退院・再入所への対応をおこなっている。</p>		
33	12	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人や家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>入所時に常時医療が必要になった場合は入院していただく旨を説明しているが、現在では看取り介護の重要性・必要性を理解し、外部研修や内部研修により今できる限りの対応ができるよう取り組んでいる。</p>	<p>重度化や終末期に向けた対応については、入居時に事業所の方針を説明している。看取りについても勉強会や外部研修を実施しており、できる限りの対応に取り組んでいる。</p>	
34		<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、すべての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている</p>	<p>緊急時のマニュアルにより、全職員が確実に対応できるよう、職員会議等で確認している。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価		
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	13	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている</p>	<p>定期的に避難訓練を実施するとともに、近隣住民や、運営推進委員の方へ協力をお願いしている。</p>	<p>防災訓練は年2回実施しており、地域住民や運営推進会議の出席者にも協力要請をしている。町全体の津波訓練にも参加している。消火器の使い方の訓練も実施し、スプリンクラーも11月に設置完了している。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価		
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員と利用者・ご家族が昔からの顔なじみという場合が多く、言葉遣いも慣れあいになってしまふことがあるため、職員会議や毎日の朝礼時等で随時確認している。	入職時に、利用者の人格の尊重とプライバシーの確保について説明している。日頃から利用者に対しての声かけの仕方など気をつけており、職員会議や毎日の朝礼などで個人を尊重したケアの実践を確認している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	各職員が毎日のコミュニケーションを大事にしており、その時その時の利用者の意向や要望を確認するようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	どうしても職員の都合により生活リズムが決定してしまうことが非常に多い。会議等で随時確認している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるよう支援している	殆どの利用者は自己決定にて衣類を選んでおられる。自己決定困難な場合は、職員により確認しながら選んでいる。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	施設生活において最も楽しみにされているであろう食事。確実に好き嫌いを把握し、提供している。配膳や片付けも、可能な利用者には手伝っていただいている。	献立は、利用者の要望を聞いたり嗜好を把握して、食事を楽しむことを大事にしている。利用者もできる範囲で後かたづけなどを行っている。職員と利用者が同じテーブルを囲んで楽しく食事ができる支援をしている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価		
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		<p>○栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている</p>	<p>食事・水分摂取量の記録等を通し、全職員で共有し、必要な対応をとっている。</p>		
42		<p>○口腔内の清潔保持</p> <p>口の中の臭いや汚れが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている</p>	<p>毎食後の口腔ケアをおこなっている。介助が必要な利用者に対しても確実に介助をおこなっている。</p>		
43	16	<p>○排泄の自立支援</p> <p>排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている</p>	<p>失禁がある利用者が増え、放尿も見られており、毎日の排泄状況を確認・記録し、排泄パターンの把握をおこなっている。</p>	<p>排泄チェック表を作成しており、利用者一人ひとりの排泄パターンを把握している。適時に声かけし、トイレ誘導を行い、できるだけおむつをしないように、排泄の自立に向けた支援を行っている。</p>	
44		<p>○便秘の予防と対応</p> <p>便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる</p>	<p>便秘を非常に気にされている利用者は多く、牛乳や食物繊維等の摂取、適度な運動等、利用者の状態を観察しながら対応している。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価		
			実施状況	実施状況	
			次のステップに向けて期待したい内容		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援している	各利用者に入浴したい時間帯を確認し、その時間帯に合わせて対応している。また、近所にある温泉に希望される利用者には職員同行にて対応している。	入浴は週に3回のペースであるが、利用者の希望を尊重している。くつろいだ気分で入浴できるように配慮し、入浴剤を使用したり必要に応じてマッサージをしたり、気持ちよく入浴できるように支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者の希望を確認し、対応するとともに、夜間の窓等の確実な施錠や巡回で、安眠できるような環境を図っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬管理表を作成しており、服薬変更となった場合等、利用者へ説明している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活暦や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	集団的レクリエーションだけでなく、個別的レクリエーションにも取り組んでいる。また、全利用者で外出しての茶話会等も実施している。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるように支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	敷地内においては畑仕事や草取り、敷地外では馴染みの美容室や自宅訪問、温泉等、ご家族や地域住民の協力を得ながらおこなっている。	日常的に買い物や散歩を行っている。希望により、友人宅への訪問やお寺参りも実施している。自宅訪問や温泉等も家族等の協力を得ながら行っている。歩行困難な利用者も、遠足などの行事にリフト車を利用して参加している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価		
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		<p>○お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>殆どの利用者がお小遣い程度のお金を持たれており、私物の購入は所持金より支払いされている。</p>		
51		<p>○電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している</p>	<p>利用者の希望に応じて柔軟な対応をおこなっている。</p>		
52	19	<p>○居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱を招くような刺激（音、光、色、広さ、湿度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>毎朝居室やトイレ等掃除はおこなっているが、失禁によりトイレが汚れてしまい、利用者より指摘をいただくことが多々ある。まだまだ季節感の採り入れが不十分な面があり、職員間での「気付き」が大切である。</p>	<p>食堂ホールは、ゆったりとして、利用者の手作りの作品や季節を感じさせる飾りがあり、利用者と職員が落ち着いて過ごせる場所となっている。トイレ等は衛生面や清掃で特に気を使っている。</p>	
53		<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>各利用者の生活リズムになるべく沿って対応しているが、随時ホールへ来ていただき、他利用者との交流の場の提供等に配慮している。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価		
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	20	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>居室には、入所前より使い慣れたタンス等を持ってきていただいている。その他、利用者・ご家族で相談され、居室整備を図っている。</p>	<p>居室は、ベッドとテーブルと椅子が備え付けられている。畳が希望の利用者には、畳を敷き対応している。居室には使い慣れた家具等が置いてあり、居心地よく過ごせる配慮をしている。</p>	
55		<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>玄関から建物内全てがバリアフリーとなっており、スムーズに移動しやすい環境となっている。</p>		

V アウトカム項目

56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)		1 ほぼ全ての利用者の
		○	2 利用者の2/3くらいの
			3 利用者の1/3くらいの
			4 ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1 毎日ある
			2 数日に1回程度ある
			3 たまにある
			4 ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿が見られている。 (参考項目：36, 37)		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
		4 ほとんどいない	

60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により安心して暮らせている。 (参考項目：28)		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目：9, 10, 19)		1 ほぼ全ての家族と
		○	2 家族の2/3くらいと
			3 家族の1/3くらいと
			4 ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)		1 ほぼ毎日のように
		○	2 数日に1回程度ある
			3 たまに
			4 ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1 大いに増えている
			2 少しずつ増えている
			3 あまり増えていない
			4 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1 ほぼ全ての職員が
			2 職員の2/3くらいが
			3 職員の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。		1 ほぼ全ての家族等が
		○	2 家族等の2/3くらいが
			3 家族等の1/3くらいが
			4 ほとんどいない